

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

一橋大学

前期日程

科目	数学
----	----

総括

試験時間	120 分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	法 180、経済 260、商 250、社会 130	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

整数問題、確率、ベクトルなど、一橋大の出題分野からキチンと出題されているが、例年と比べると計算量が多くなり、少し面倒な論証を必要とする部分が増加したことが目立った。

〈特記事項・トピックス〉

ここ数年の流れとは異なり、全体としてみるとかなり難化した。特に、小問(2)に難しいものが目立つが、この種の問題は、多くの受験生が解けないので得点差は大きくはならないであろう。

〈合格への学習対策〉

一橋大の数学は文系としては、最も難しいものの一つであり、相当な計算および、正確な論証を必要とする問題が目立つ。したがって基本事項を理解した上で、相応なレベルの問題演習を繰り返し、問題を解く発想力と結果を正しく導き出す計算力を養う必要がある。特に、頻出分野の整数、図形問題、確率には十分な注意を払って学習したほうがよい。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1	記述式	I	整数	整数の3乗に関する整数方程式であるが、因数分解をして約数について考えるとよい。	標準
2	記述式	II	三角関数, 積分	与えられた不等式中辺の最大値・最小値を考えることに帰着する。(1)三角関数の合成によって処理できる。(2) $\cos \alpha, \sin \beta$ が独立に変化することを理解できれば難しくはないはず。	標準
3	記述式	II	放物線と円の共有点条件と領域の図示	放物線の軸上に中心をもつ円ともとの放物線が共有点をもつ様子を図形的に把握できないと難しい。また、計算も要領良く行わないと繁雑になる。	やや難
4	記述式	B	平面ベクトルと論証	(1)点の移動を三角形の移動とみなして図を正しく描くことができるかが問われている。(2)をキチンと論述することは受験生にとっては難しいだろう。	標準
5	記述式	A	反復試行の確率	(1)は標準的な問題であり、解法も定まっているので学習の成果が問われる。(2)(ii)の後半を完全に答えることは難しさの点でも時間的な点でも無理であろう。	難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。